

【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】

基準Ⅰの自己点検・評価の概要

学校法人光星学院の建学の精神は昭和34年に創立者中村由太郎により制定された。中村由太郎の建学の精神は「神を敬し、人を愛する」という言葉に集約され、創立以来今日まで受け継がれ、本学の教育理念の基となっている。（提出資料-1）

本学では建学の精神とこれに基づく教育目的・目標を学内外に明確に示し、周知を図っている。建学の精神は入学式式辞、学院主講話・学長講話、オリエンテーション、入学試験説明会等で理事長・学院主・学長・担当者が述べている。全学的には必修の「宗教学」や必修の「学修の手引き」で共有を図っている。本学の建学の精神や教育活動は平成25年度の校名変更を機に、広く地域へも周知されている。

幼児保育学科・ライフデザイン学科・看護学科の3学科はそれぞれ建学の精神に基づいた教育目的・目標、三つの方針を有し、いずれも学生に対して到達目標を示している。3学科とも最終目的の一つに資格取得があり、履修の各段階で学習の成果を査定する仕組みを有している。

専門的学習成果に関しては「三つの方針」における学位授与の方針に到達目標を示し、厳正な査定のもとに学位を授与している。学業成績の他に実習評価、研究発表、地域貢献なども勘案して、質的・量的に査定している。その成果は「自己点検・評価報告書」にまとめ、ホームページに掲載している。

汎用的学習成果についても学科ごとにPDCAサイクルで検証を進めている。

自己点検・評価活動は報告書作成の積み重ねにより、建学の精神に則した教育・経営がPDCAサイクルで営まれている。平成27年度は全教員が「自己点検・評価個人シート」を自己点検・評価委員会に提出し、その実績や課題が本報告書に反映されている。

課題としては建学の精神の共有や学内外への表明について今後とも引き続き考え続けていくことである。

そのためには、学生行事や教職員の研修等において、それらが建学の精神にふさわしい内容であるかを意識して企画していかなければならない。また、地域貢献活動を通して「学生の専門性と人間性の向上を促すためのきめ細かな指導」を積極的に公開し、平成31年度の発足が予定されている「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」と本学とのあり方の違いを前面に出していく。

本学の「建学の精神、教育理念、教育目的、学科の教育目的・教育目標」を次ページに示す。「三つの方針」をその次のページに示す。

建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

八戸学院短期大学は、カトリック精神に則る道徳教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする。

教育理念

教育基本法および学校教育法に基づき、カトリック精神に則り、広く豊かな教養をもち、正しい道徳観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をすることを理念とする。

教育目的

カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道徳観と高い知性を有する民主主義的にして平和を愛好する人材を育成することを目的とする。

学科の教育目的・教育目標

表 I-1

学科	教育目的	教育目標
幼 児 保 育	カトリシズムに則り、愛と知性に富み、健全にして豊かな情操と調和のとれた人格を有し、保育の社会的発展に貢献する人材の育成を目的とする。	(1) 理念と実践の融合を図り、常に保育の専門性の向上を目指す保育者を育成する。 (2) 子どもを受容し共感できる感性をもち、子どもの権利を尊重する保育者を育成する。 (3) 社会に役立つ人材として、新しい保育を創造していく保育者を育成する。
ライフデザイン	自立した個の確立を目指して、人生や生活をデザインできる知識や技術を学修し、実践等を通して、進んで社会に貢献する行動力とバランスある思考力を有する人材の育成を目的とする。	(1) 自らの意思と判断に基づいて行動できる人材を育成する。 (2) 豊かな生活を創造し、環境や自分自身の変化に柔軟に対応できる能力を育成する。 (3) 各分野の基本となる資格取得に直結対応したカリキュラム編成により、地域社会で活躍できる実践力のある人材を育成する。
看 護	豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する看護の知識や技術に対応できる能力や地域の保健医療活動、健康増進に看護の実践者として貢献できる資質の高い人材の育成を目的とする。	(1) 広く豊かな教養を身につけた看護師を育成する。 (2) 理論と実践を統合し、看護の専門性を探究する看護師を育成する。 (3) 医療の高度化に対応した実践力の高い看護師を育成する。

八戸学院短期大学三つの方針（ポリシー）

表 I-2

区 分	ディプロマポリシー (学位授与の方針)	カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッションポリシー (入学者受け入れの方針)
八戸学院 短期大学	<p>本学では、卒業要件を満たし、以下のことを修得した人物に卒業を認定するとともに、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に基づき、幅広い教養および総合的な判断力と豊かな人間性を身につけている。 それぞれの専門的分野において社会的役割と責任を果たし、地域社会に貢献することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 建学の精神に則って宗教学を必修科目とし、広い教養と豊かな人間性を育むための教養系科目を配置する。 考える力や表現する力を養うため、少人数の参加型授業（ゼミナールや研究演習）を必修とする。 それぞれの学科において、目標とする資格を認定するための専門教育科目を配置し、資格取得のために必要な知識と技能を養う。 	<p>本学では、以下の資質をもった人物を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神を理解する人 それぞれの学科における専門的分野の学修に意欲をもっている人 地域社会の一員としての自覚をもち、地域への貢献に意欲的な人
幼児 保育 学科	<ol style="list-style-type: none"> 健全で豊かな情操と保育の知的・実践的専門性を有し、子どもの成長・発達を支える環境を創造することができる。 子どもを受容し共感する感性をもち、子どもの権利を尊重しながら、地域や保護者と連携することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 保育者に求められる情操を育む柱として音楽教育を重視し、教養科目の音楽と専門科目のピアノレッスンを必修とする。 保育士資格および幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要なカリキュラムを編成し、専門職者としての能力を養成する。 現場での実習とともに学内指導の科目を通年で配置し、保育者としての実践的専門性を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> 保育者になる強い意志をもち、積極的に学習する人 子どもを理解し、共感する知性と感性を有する人 コミュニケーション能力に優れ、表現力が豊かな人
ライフ デザイン 学科	<ol style="list-style-type: none"> 人生や生活を主体的にデザインできる教養とスキルを身につけている。 将来に対する明確なビジョンをもち、社会に貢献できる行動力と論理的に問題解決ができる思考力を有する。 	<ol style="list-style-type: none"> 現代社会のニーズに対応できる能力の育成を目指し、「食と観光」、「福祉と健康」、「ビジネススキル」の3つのコースをおく。 資格取得に向けて、「食と観光コース」には「食プログラム」、「観光プログラム」、「福祉と健康コース」には「福祉プログラム」、「健康プログラム」、「ビジネススキルコース」には「ビジネスプログラム」、「ITプログラム」をおく。 現代社会を理解する科目と「人生の得意技」を身につける科目を配置し、将来をデザインする力を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> 将来を創造する意欲をもち、積極的に学習する人 資格取得など、「人生の得意技」を身につけようとする人 コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係を築こうとする人
看護 学科	<ol style="list-style-type: none"> 保健・医療・福祉分野で必要とされる看護の専門性と基礎的な実践力を身に付けている。 看護学の各分野における専門性を有し、現代社会が求める健康に関するニーズに対応することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 知性と感性を身につけた看護師の育成のためのリベラルアーツ科目を配置する。 看護師国家資格取得に必要なカリキュラムを編成し、専門職者としての能力を養成する。 専門関連科目として研究演習を2年次から3年次にかけて配置し、医療の高度化に対応できる能力を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 看護師になる強い意志をもち、積極的に学習する人 人間を理解し、共感する知性と感性を有する人 援助的人間関係を築くために努力する人

基準 I-A 建学の精神

基準 I-A-1 建学の精神が確立している。

(a) 現状

学校法人光星学院の建学の精神は、昭和34年、創立者洗礼名ヨゼフ中村由太郎により制定された。中村由太郎は自らの苦学の体験とキリスト者としての愛と奉仕の精神を基に、「若人に教育の機会を与え、人格の陶冶を図り、地域社会の発展に寄与する人材を育成せん」と開学を決意し、「神を敬し、人を愛する」という言葉にその意を込めた。

本学は創立者の建学の趣旨・理想を受け、教育理念に「教育基本法および学校教育法に基づき、カトリック精神に則り、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をすることを理念とする」と謳っている。

中村由太郎はその後、法人の理想とする「立体的総合学園構想」を打ち出している。その骨子は下記のとおりである。構想には生涯学習社会の到来を予見した、地域文化活性化への期待が込められている。

表 I-3 立体的総合学園構想

- ・ 教育の基本組織構成
幼稚園--小学校--中学校--高等学校--短期大学--4年制大学--大学院
- ・ 前記の正規の学校を土台として、社会人を対象とする成人教育を含む生涯学習の場を設置して提供する。
- ・ 立体的総合学園構想は一つの指導原理によって貫き、真に時代が要請する有為な人材育成を図る。
- ・ 全体構想完成までには前途遼遠を思わせるものがあるが、急がず、あせらず、夢(理想)実現に向けて着実な歩みを期する。

本学はこの構想を受け継ぎ、平成25年度から重点目標に「地域貢献の推進」を掲げ、地域文化の活性化事業を展開している。(選択的評価基準に詳述)

建学の精神の表明については、平成21年から学内各所に「神を敬し、人を愛する」を掲額し、一般の来学者にも周知を図っている。また、全学生に配布する「学修の手引き」には建学の精神・教育理念・教育目的を明記している。平成27年12月に竣工した幼児保育学科棟1号館エントランスホールには本学元教授・欠畑みな子氏制作の「聖母マリア像」を安置して、本学のシンボルとしている。(提出資料-1)

平成25年、法人は法人内のすべての教育機関において、「八戸学院」を冠とする校名変更を行い、本学も「八戸短期大学」から「八戸学院短期大学」へ校名が変更になった。少子化が急激に進行する中で本学院の一層の充実・発展を期するためには、改めて創立者中村由太郎の「立体的総合学園構想」の理念に立ち返り、法人の一体感を醸成するとともに地域との連帯感を示す必要があるとの判断である。校名の統一化と同時に八戸学院全体のロゴマークを作成した。八戸学院短期大学のロゴマークは図 I-1のとおりである。



図 I-1 八戸学院短期大学ロゴマーク

ロゴマークは「八戸を愛する心」と「無限の可能性」の精神を込め、郷土の「南部菱刺(ひしざし)」をモチーフに「連続性」をデザインしたものである。八戸の「8」を表現するだけでなく、「八戸学院グループ」が時代を超えて連綿と受け継いでいく「未来への展望」をシンボライズしている。シンボルカラーは日本固有の伝統色である臙脂色(えんじいろ)とし、内に秘めた情熱を持ちながら、冷静・沈着な思考力と行動力に富んだ人物像をイメージしている。

平成25年は新理事長・学長が就任したこともあり、法人全体で改革元年と位置づけ、建学の精神の周知に取り組んだ。以来、入学式の式辞では理事長・学長がこれを取り上げ、学院主(創立者の直系親族)も講話を行っている。年度初めの教授会では学長が全教職員に建学の精神を説明し、学生には「宗教学」の授業を全学必修としている。教職員の「新年の集い」や学内施設の竣工式等は司祭によって執り行われ、聖書が朗読されている。また、本学の伝統として、学生が各種式典で宗教曲を披露している。合唱は毎回学内外から反響を呼んでおり、建学の精神の共有に貢献している。(備付資料-4, 81)

学外に向けては、ホームページ、学院広報誌「CAMPUS八戸学院」、大学案内などで建学の精神を公開し、オープンキャンパスや大学説明会でも説明している。(提出資料-2, 11、備付資料-7)

建学の精神の確認については、学長・学科長が高等教育をとりまく社会の状況を鑑み、解釈や文言を定期的に推敲するなどしてその結果を教授会に図り、学長の経営方針に反映させている。

(b) 課題

建学の精神は本学の教育理念・理想を明確に示している。その理念は学内外に表明され、学生は「宗教学」の授業や学長講話、式歌を通して理解を深めている。しかし、国内においてキリスト教の宗教色が薄まる中、本学の建学の精神をどのように体現していくかは永続して考えなければならない課題である。

基準 I-A 建学の精神の改善計画

建学の精神を今後とも共有し、学内外へ表明し続けるためには、各種のプログラムの企画・実行が建学の精神の具現化にふさわしいかどうかを宗教色も加えて検討していく。

学内外への表明の際に、本学の地域貢献を通して「学生の専門性と人間性の向上を促すためのきめ細かな指導」を積極的に公開していく。平成31年度の発足が予定されている「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」との教育環境の違いを前面に出して表明していく。

なお、本学の学風として①教職員と学生の距離が近い、②即戦力となる人材を育てる実学教育と学外実習、③専門教育と教養教育のバランス、④きめ細かなキャリアサポート、⑤ニーズの多様化に対応するカリキュラム、⑥地域貢献活動の展開等が挙げられる。これらをさらに充実・深化させて魅力向上を図っていく。

[基準 I-Aの提出資料]

提出資料- 1 学修の手引き

提出資料- 2 大学案内 [平成27年度]

提出資料-11 ウェブページ「情報公開」

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/jc/disclosure/>

[基準 I-Aの備付資料]

備付資料- 4 平成27年度 学長講話

備付資料- 7 CAMPUS八戸学院

備付資料-81 教授会議事録 [平成27年度]

基準 I-B 教育の効果

基準 I-B-1 教育目的・目標が確立している。

(a) 現状

本学の教育目的は八戸学院短期大学学則第1条第2・3・4項に明記され確立している。3学科ともそれぞれの分野で理論と実践の融合を図り、教育水準の向上や活性化に努めるとともに、地域社会で活躍できる行動的实践者を育成している。（提出資料-1, 2）

各学科の教育目標は「基準 I の自己点検・評価の概要」に示している。

各学科の教育目的・目標、教育の三つの方針は「学修の手引き」に明記しており、学習成果の到達点は学位授与の方針に示している。（提出資料-1）

これらを学生に周知するため、「学修の手引き」を用いてオリエンテーションで説明している。学外に対しては、ホームページ・大学案内・大学ポートレートなどに掲示し、オープンキャンパス・外郭3団体会合（後援会・父母の会・同窓会の各総会等）でも広報している。

（提出資料-1, 2, 8、備付資料-5）

教育目的・目標の点検としては、学科長会議・教授会で翌年の教育目的・目標を確認し教職員全体の共有を図っている。

(b) 課題

教育目的・目標について、新入生・在学生への説明、学内外への公表は今後とも継続して実施する。内容や文言の点検は年度末に学科長会議で行っているが、今後は各学科において、踏み込んだ点検が必要である。

「三つのポリシー（三つの方針）」については、学校教育法施行規則の改正に伴い見直しを行わなければならない。

1) 三つのポリシーの策定の義務化

- ・ 卒業の認定に関する方針
- ・ 教育課程の編成及び実施に関する方針
- ・ 入学者の受入れに関する方針

2) 三つのポリシーの公表の義務化

3) 学校教育法施行規則改正

（平成29年4月1日施行）

社会の求める人材育成の趣旨は少しずつ変化しており、学習成果の点検と合わせて具体的な確認と検討を行う。

基準 I-B-2 学習成果を定めている。

(a) 現状

学習成果は三つの方針の一つである学位授与の方針に明確に示されている。学位授与の方針は建学の精神および各学科の教育目的・目標に基づいて策定されている。(提出資料-1)

(1) 学位授与の方針

表 I-B-1 学位授与の方針

本学では、卒業要件を満たし、以下のことを修得した人物に卒業を認定するとともに、学位を授与します。
1 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に基づき、幅広い教養および総合的な判断力と豊かな人間性を身につけている。
2 それぞれの専門分野において社会的役割と責任を果たし、地域社会に貢献することができる。

学生の学習成果は建学の精神を理解し、専門的分野において身につけた専門性と人間性をもって、地域に貢献できる人材に到達することである。各学科の学習成果は、学位授与の方針に連動させ、教育目的・目標に基づいて次のように示している。

(2) 専門的学習成果到達目標

表 I-B-2 専門的学習成果到達目標

幼児保育 学科	1 健全で豊かな情操と保育の知的・実践的専門性を有し、子どもの成長・発達を支える環境を創造することができる。 2 子どもを受容し共感する感性をもち、子どもの権利を尊重しながら、地域や保護者と連携することができる。
ライフデザイン学 科	1 人生や生活を主体的にデザインできる教養とスキルを身につけている。 2 将来に対する明確なビジョンをもち、社会に貢献できる行動力と論理的に問題解決ができる思考の能力を有する。
看護学科	1 保健・医療・福祉分野で必要とされる看護の専門性と基礎的な実践力を身に付けている。 2 看護学の各分野における専門性を有し、現代社会が求める健康ニーズに対応することができる。

学習成果は、専門的学習成果と汎用的学習成果の2つの側面から測定している。専門的学習

成果は卒業に必要な単位の修得率、資格取得率、および就職率によって測ることができる。

表 I-B-3 平成27年度専門的学習成果実績一覧

学 科	卒業単位 修得率	資格取得率		就職率	備 考
幼児保育学科	100%	幼稚園教諭 二種免許	96.7%	100%	
		保育士資格	96.7%		
ライフデザイン 学科	100%	2 種目以上の 資格取得	86.7%	100%	1種類以上取得96.7% 8種類取得 6.6%
看護学科	82.6%	国家試験 合格率	92.5%	100%	

学習成果に関するその他のデータとして、3学科とも学期ごとに全科目のGPAを算出して学生に示している。GPAの低い学生や著しく低下した学生には、基礎学力の強化を図り、学科で方針を定めて指導している。（備付資料-12, 13, 37）

(3) 汎用的学習成果到達目標

表 I-B-4 汎用的学習成果到達目標

幼児保育学科	「他者との協調性・対人関係能力、コミュニケーション力、教育・保育実践力、課題の探求心」等、教育・保育に必要な基礎的・汎用的な能力を獲得している。
ライフ デザイン学科	職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的・汎用的な能力を獲得している。
看護学科	看護師として社会的に、また、職業的に自立するために必要な基礎的・汎用的な能力を獲得している。

◆ 各学科の汎用的学習成果

〈幼児保育学科〉

1、2年生とも実習終了後に数値と言葉による自己評価をさせ、施設からの評価と照らし合わせて自己課題を明確にするよう促している。その他に「教職・保育実践演習」の履修カルテとして、学生の自己評価シートを活用し、入学から卒業までの変化を追跡している。実習評価と自己評価シートには、対人関係能力やコミュニケーション力などの汎用的学習成果に関する評価が含まれている。（備付資料-14）

平成27年度の評価結果は、学生の自己評価では「他者意見の受容」「他者との連携・協力」と「社会人としての基本」が高く、実習先の評価では「責任感」「意欲・積極性」「探究心」が評価されている。入学から卒業までの変化では「発達段階に対応したコミュニケーション」と「子どもに対する態度」に大きな進歩が見られている。学生たちが2年間の授業や実習、ゼミナール研究発表、学校行事、就職活動、地域貢献等の活動を通して資質向上に努めてきた結果である。

〈ライフデザイン学科〉

コミュニケーション能力や問題解決能力、社会で求められる基本的マナー等について、普段から学生の行動を観察し、教員間で情報を共有し連携して指導を行っている。到達度の低い学生に対しては、学科内で協議し、ゼミナールや学科独自の企画による指導の機会を設け、実際の場面を想定した演習などの指導を継続して行っている。

平成27年度は、前年度から行っている汎用的学習成果の自己評価に加えて、ボランティアデー（学科全員参加によるボランティア活動）と学生祭の後に、「社会人基礎力」を基にした独自の「イベント参加時の汎用的学習成果」の自己評価による測定を行った。これは、就職先アンケート（平成26年度）で多くの職場が「自分で判断する時、わからなかったら上司や先輩に聞いて教えてもらう行動力」を求めていることからこれを学科の課題であると捉え、今後の指導のあり方を探るために行ったものである。結果は、10の質問中、全体の傾向を示す主体性に関わる質問で、73%の学生が参加前の自分に比較して目の前の課題に取り組むことができるようになったと答えており、行動力の向上が見られた。また、実行力、課題発見力、計画力、柔軟性、規律性、ストレスコントロール力等の項目においても、70%以上が新しい発見や能力の向上があったと評価し、行動力に達成感を得ている。今後は「創造力」「発信力」「傾聴力」等の向上が課題である。

前期と後期に実施した汎用的学習成果の自己評価では、前期と後期ともに6割、後期の総計では7割の学生が「かなり達成している」、「充分達成している」と答えた。後期に達成度が増している項目は実行力（52%から69%に増加）、問題発見力（52%から65%に増加）、計画力（58%から73%に増加）などで、達成度が下がった項目はなく、学習成果があったといえる。今後は学生の自己評価の継続と、教員による評価を計画する。（備付資料-14）

〈看護学科〉

汎用的能力については、日々の学生の行動から社会人としての基本的マナーやコミュニケーション能力、問題解決能力などを観察・指導している。学年が進み臨地実習の経験を重ねるにつれ、それらは修得されている。年1回の「学士力」（文部科学省）および年2回の

「社会人基礎力」（経済産業省）を用いた学生の自己評価は、学生が自分自身を省みる良い機会となっている。（備付資料-14）

平成27年度の「学士力」の結果はすべての項目において3年生が最も高得点であり、学年別の高得点項目は3学年とも「倫理観」であった。これは、看護する者として重要視されていることを入学直後から学び、実践しているためであると考えられる。低得点項目は3学年とも「数量的スキル」であり、専門知識のみならず社会一般においても数量を用いた科学的思考に苦手意識を抱いていることが分かった。また、「社会人基礎力」においてもほとんどの項目で3年生が高得点で、学年別の高得点項目は3学年とも「規律性」「傾聴力」「柔軟性」の順であり、看護師を目指す学生として日々の学習、演習や実習を通じて培われていることがわかる。

(4) 3学科全体の専門的・汎用的学習成果

各学科とも、学生一人ひとりの学習成果は学業成績、実習評価、研究発表、地域貢献等に基づいて、各教員が把握している。卒業単位取得と資格取得、就職実績による点検の結果は3学科で共有している。

就職実績は就職指導の資料として学生に示すほか、本学のホームページや大学案内で広報している。

学生は本学の重点目標である地域貢献（ボランティア活動や地域行事・地域協定事業等）に積極的に参加しており、それらは学生の資質の向上につながるとともに、それ自体が学習成果を発揮する場ともなっている。本学ではこのような機会を活用して、学生の日頃の学習成果を高校生や保護者、一般市民に積極的に公表している。（選択的評価基準「地域貢献の取り組みについて」参照）（備付資料-84）

平成27年度、就職支援の一環として就職先による卒業生評価アンケートを実施した。このアンケートは、学習成果を測定する重要な仕組みであり、学習成果の評価として活用できる。アンケートの結果は、汎用的学習成果では「協調性」や「ルールへの順守」が評価されている。一方職場が学生に望むこととしては幼児保育学科が一部学生に対する「社会人としてのマナー」があげられ、ライフデザイン学科は「仕事に対する積極性」が、看護学科は「知識・技術の習得」があげられている。（備付資料-16）

専門的学習成果は3学科とも定期的に点検を行い、学位授与の方針として、学修の手引きやホームページで公表している。汎用的学習成果も定期的に点検を行い、特にその測定方法について検討している。

(b) 課題

専門的学習成果の課題の一つとして資格取得達成度向上があげられる。

幼児保育学科では「認定こども園法」の改正を受けて、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の双方の取得率を100%に近づけること（平成27年度取得率は幼稚園教諭二種免許状96.7%、保育士資格96.7%）、ライフデザイン学科では「卒業までに2種目以上の資格を取得する」という目標を全員が達成すること（平成27年度の2種目以上取得率86.7%）、看護学科は看護師国家試験合格率を向上させ、100%達成を目指す（平成27年度国家試験合格率92.5%）という課題がある。

汎用的学習成果として、幼児保育学科は、特に目立つ低評価は無いが、学科の汎用的到達目標から見ると「課題の探究心」に課題がある。日頃、一部の学生に学習への取り組みに自信の無さが見られることを多くの教員が感じている。この点の改善に関して、教員の「自己点検・評価個人シート」には今後の対策として「参加型授業による表現力、コミュニケーション力の向上」「体験型授業を導入し理論と実践の融合を図る」「苦手意識のある科目の基礎学力の補完に努める」「適切な教材研究（DVD、NIE、テキスト、資料）を行い、双方向型のコミュニケーションがある授業を実践する」等の意見があった。（備付資料-10, 14）平成27年度、ライフデザイン学科はインターンシップについて科目履修者を増やすことと、企業の評価で指摘があった積極性や実行力・コミュニケーション力を養成することが課題であった。28年度は科目「インターンシップ」は全員が履修することになり、課題の一つを達成することができた。青森県の補助事業の利用等、学科で効果的な方策を検討して実施する。また、学科教員の「自己点検・評価個人シート」に挙げられた「考える力・自己表現力を養成する参加型授業を継続していく」「地域と連携した活動に取り組みながら、活動に学生の視点や力を反映させる」も実行していく。今後も前期・後期2回の評価測定を継続して分析していく。なお、27年度に実施できなかった教員による評価測定も実施する。（備付資料-10, 14）

看護学科は、汎用的学習成果の測定として、低得点項目が2・3学年では「創造力」、1学年では「働きかけ」であった。自分の考えや価値観を明確にし、主体的、計画的に行動しながら周囲にわかりやすく伝えていくことに苦手意識を抱いていた。今後も、「学士力」「社会人基礎力」の自己評価を継続していく。（備付資料-14）

3学科とも卒業生評価や汎用的学習成果により、全体に指導のポイントが明確になってきた。今後これらの資料を基に学科ごとに検証を行い、学生の特性を見極めた上で具体的なアクションプランを立案し実行に移していく。

なお、地域貢献推進の姿勢を継続し、本学の教育効果を学内外に示して地域社会での存在感を高めていく。

基準 I-B-3 教育の質を保証している。

(a) 現状

本学では学務部が学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを適宜確認し、法令順守に努めている。学内規程等を制定・改正する場合は、該当する委員会等で検討した後、教授会を経て八戸学院大学・八戸学院短期大学運営会議で審議し、学長が決定している。必要な教育情報はホームページで公開している。（提出資料-8、備付資料-77）

建学の精神に基づく教育方針は学位授与の方針に基づき、各学科の学習成果を定め、シラバスに記載している。学習成果は「八戸学院大学短期大学学位規程（諸規程集）」「八戸学院大学短期大学試験規程（諸規程集）」に基づき、定期試験、レポート、実技および作品、研究発表等により厳格に評価している。（提出資料-16、備付資料-77）

学習成果を基に教育効果を査定する方法としては成績評価、学生の自己評価、実習評価などを資料としている。教員個々が「自己点検・評価個人シート」を提出することで教員自身による自己点検も行っている。（備付資料-10）

(1) 授業のPDCAサイクル

表 I-B-5

授業のPDCAサイクル

Plan 授業科目の概要と到達すべき学習成果、授業計画、学習評価の方法を示したシラバスを作成する。

Do 授業、実習指導、学習・研究支援を実施する。

Check 成績評価の分布、学生の自己評価、学生による授業評価によって課題の発見・分析を行う。教員による授業見学を受ける。「自己点検・評価個人シート」を作成する。

Action FD 活動等を参考に課題の解決策を検討し、次のプランに接続させる。

(2) 学科会議・学科長会議

教育活動全般の質の向上・充実を図るため、各学科の学科会議を定期的(月1回)に開催して活動の実施状況を報告し、案件を審議している。また、学長・学科長、学務部長、本学事務室長による学科長会議を2か月に1回開催して直近の諸状況を共有し、自己点検を行っている。

(3) 委員会活動のPDCAサイクル

教育の質保証のもう一つの側面として委員会活動がある。本学では11の委員会と3つの学科からなる分掌の活動を平成25年度からPDCAサイクルで実施している。年度末の報告書には計画の実行状況とともに達成度と課題を示し、活動実績の成果を明らかにしている。達成度をABCDの4段階で評価した結果、平成27年度はA評価「極めて良い」が53%、B評価「概ね良い」が29%と良好な結果が得られた。課題としては委員会内の意見交換、インターンシップの履修者増、学習習慣の確立等が挙げられている。（備付資料-6）

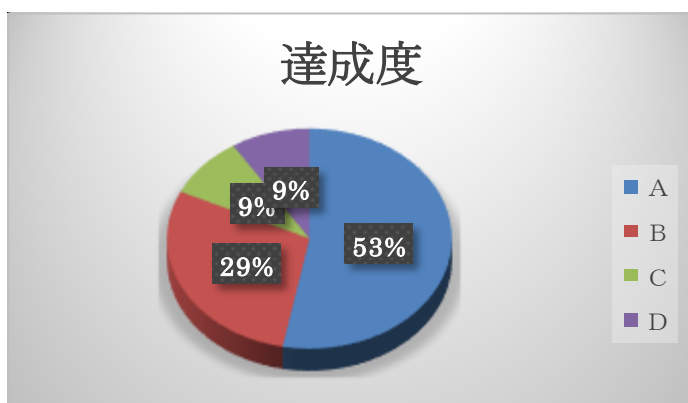


図 I-B-1 委員会活動事業報告書ABCD評価の平均

実習指導や学科行事、学生会活動等についても、PDCAサイクルによる業務遂行が行われている。

(4) 質保証の中長期目標と実施状況

本学では質保証の中長期目標として次の3点を掲げて実施している。

① 授業の充実

授業は地域や保護者の負託に応え、学生の将来を創造するための根幹となるものである。本学の教員は使命感をもって授業に臨み、事務職員がこれを支えている。対話型学習、グループ討論、調べ学習、意見発表などを多く取り入れ、双方向対話による学習が行われている。その結果、本学全体の「学生による授業評価」では全般に高い評価を得ている。(備付資料-27)

リメディアル教育では平成27年度も入学予定者全員に「入学前学習課題」を課し、関連する授業の中で弱点の克服と基礎学力の向上に活用した。また、3学科とも基礎学力向上のためのプログラムを擁し、計画的に実施している。(備付資料-19, 37)

FD委員会主催の講演会、ワークショップ、公開授業等の研修は、教員の授業力向上に効果が見られている。

授業は PDCAのスパイラルプロセス(表 I-B-5)により、学習成果の獲得に向けた授業改善を行っている。

② 実習の厳正

資格取得と直結する「実習」は本学の教育の重要な柱である。実習(ライフデザイン学科ではインターンシップ)にあたっては3学科とも事前指導・本指導・事後指導を行い、理論と実践の融合を図っている。GPAの低数値により実習不可、実習先の低評価により再実習となる学生もいる。(備付資料-31)

3学科とも、実習は社会と繋がる専門的・汎用的学習の場であるにとらえ、厳正な指導・評価を実習先と連携して行っている。

③ 品格の向上

本学では8割以上の学生が女子学生であるという特性をふまえ、それぞれが女性性・男性性を発揮し、学生として、職業人としてふさわしい品性を備えるよう指導している。授業態度や挨拶・言葉づかい、表情や姿勢など、社会人基礎力の向上に気を配るとともに、外

部講師によるマナー・コミュニケーション講座も例年行っている。平成27年度は授業態度や日常の挨拶に向上が見られた。

(b) 課題

入学してくる学生は年々学力と意欲が多様化している。実技的な科目や体験型学習は受け入れやすいが、理論を主とした座学は苦手としている学生も少なくない。平成26年度に実施した「学生生活調査」（独立行政法人日本学生支援機構・学生生活部学生支援企画課・隔年調査）によれば、学生が感じている「勉強の難易度」は3学科全体で見ると「難しい」が22%、「たまに難しさを感じる」が64%、「難しすぎる」が3%となっている。学科ごとの差はあるが、半数以上の学生が難しさを感じている。安易な方向に流れやすい学生気質を教員が工夫と使命感で支えているというのが実情である。しかし、実習等の現場学習や地域貢献活動を契機に、専門的・汎用的に格段の成長を遂げる学生も多い。総合的に見ると、教員は入学後の学習成果は高い水準で推移していると判断している。（備付資料-8）

いずれにしても基礎学力の向上は恒常的課題である。学内のFD活動との連携を強化して、学力と意欲の増進を図っていく。

基準 I-B 教育の効果の改善計画

学習成果の評価はさまざまな形(GPA、資格取得率、就職率、卒業生アンケート、実習評価、自己評価等)で行っているが、卒業後の社会での評価は、今後も定期的に継続実施し、教育の質の広範な査定を行っていく。引き続き、PDCA サイクルによる実施結果の見直しと改善を継続する。

地域貢献活動は事例報告書に延べ 212 件が報告されている(28 年 3 月現在)。学生の視点や力を活動に反映させて、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢の涵養にさらに努める。

本法人は平成28年4月に「立体的総合学園構想に基づく具体的改革方針」を打ち出し、戦略会議を発足させた。ライフデザイン学科の入学者減少(平成28年度、定員40名中入学者16名)に伴う学科再考・再編成と本短期大学の学部化も懸案事項に入っている。(備付資料-9)

平成26年度から27年度にかけて、文部科学省から出された「専門学校の実践的な職業教育を行う新たな教育機関の制度化」の問題がある。これに関して短期大学は本来の教育の特長を地域社会に明確に示していくことが求められている。本学も「専門スキルの習得だけでなく、汎用的な教養教育に力を入れていること、多様な学科行事や人間関係による人格形成がなされていること」などの周知を図りながら「学生・社会のニーズを踏まえた教育内容の検討」「産業界・自治体と連携した地域での中核機能の確立」「教職員の資質と能力の向上」「各種データ収集や客観的な根拠の分析専門職者の配置」を中長期の課題として、さらなる質の向上を目指していく。

【基準 I-B の提出資料】

提出資料- 1 学修の手引き「八戸学院短期大学学則」 [平成 27 年度]

提出資料- 2 大学案内「未来をつくるチカラ。」 [平成27年度]

提出資料- 8 ウェブページ「教育情報の公表」

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/jc/edu-info>

提出資料-16 教学Webシステム「シラバス」

幼児保育学科：

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/department/yoho/curriculum/>

ライフデザイン学科：

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/department/lifedesign/curriculum/>

看護学科：

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/department/nurse/curriculum/>

【基準 I-Bの備付資料】

備付資料- 5 外郭3 団体学長挨拶

備付資料- 6 各委員会事業報告書

備付資料- 8 学生生活調査報告書(隔年実施) [平成 26 年度]

備付資料- 9 立体的総合学園構想に基づく具体的改革方針

備付資料-10 自己点検・評価個人シート

- 備付資料-12 各学科の GPA 結果一覧表
- 備付資料-13 各学科資格取得状況表
- 備付資料-14 各学科の汎用的学習成果に関する資料
- 備付資料-16 就職先アンケート集計結果（事業所）
- 備付資料-19 入学前学習課題
- 備付資料-27 FD 報告書「学生による授業評価アンケート結果」
- 備付資料-31 実習指導・就職指導・学科指導に関する資料
- 備付資料-37 リメディアル教育関係資料
- 備付資料-77 諸規程集
- 備付資料-84 地域貢献活動一覧表

基準 I-C 自己点検・評価

基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している。

(a) 現状

大学評価統括本部は「八戸学院大学・八戸学院短期大学大学評価に関する規程（諸規程集）」に基づいて組織され、自己点検評価の基本方針および実施方策を定めている。また「八戸学院短期大学自己点検評価委員会規程（諸規程集）」に基づき、自己点検・評価委員会が毎年度、自己点検評価・報告書を発行している。（提出資料-9, 10）

「自己点検・評価委員会」は自己点検・評価報告書の作成、「大学評価統括本部」は大学評価に係る諸事項の意思決定および大学認証評価・短大第三者評価受審時における対応組織として役割を果たしている。平成21年12月に「平成22年度より大学と短大それぞれの自己点検・評価委員会が相互に検証を行う」ことを決議し、平成23年度より毎年度相互評価を実施している。自己点検・評価報告書の作成については、平成26年度から「自己点検・評価個人シート」を全教員が作成している。シートは学科ごとに学科長がとりまとめ、学長が総括した結果を全員に配布し、その内容を自己点検報告書の記述に反映させている。報告書に示された課題・行動計画は学科長会議で取り上げ、改善に努めている。本報告書は作成の過程において、また製本後の共有において、全学の意識の統一と改革を促す役割を果たしている。（備付資料-3, 6, 10）

報告書は毎年ホームページで公表し、冊子は各関係各所に送付している。（提出資料-11）

(b) 課題

自己点検・評価報告書の作成に当たって、平成27年度は昨年と同様に基準ごとの責任編集制をとり、基準担当者が原稿の回収と点検を行った。原稿の執筆は一部遅延があったが、全般に教職員の積極的な参画が得られている。備付資料の回収にやや困難が見られた。

自己点検・評価の報告書をより明確で機能的なものにし、その結果を新たな充実・改善に結びつけるため、PDCA サイクルによる学内システムの機能的な運用を徹底する。

基準 I-C 自己点検・評価の改善計画

平成27年度は前年に続き、全教員が学科長に「自己点検・評価個人シート」を提出し、全員参加の目標が達成された。（備付資料-6）

自己点検・評価委員会は28年度の第三者評価を控え、「第三者評価のための全学研修会」を開催した。この結果を踏まえ、今後も自己点検・評価個人シートの提出と研修会を継続実施する。

[基準 I-C の提出資料]

提出資料- 9 八戸学院大学・八戸学院短期大学大学評価に関する規程

提出資料-10 八戸学院短期大学自己点検評価委員会規程

提出資料-11 ウェブページ「情報公開」

<http://jc.jachinohe-u.ac.jp/jc/disclosure/>

[基準 I-C の備付資料]

- 備付資料- 3 八戸学院大学・八戸学院短期大学 相互評価の検証 [平成26年度]
- 備付資料- 6 各委員会事業報告書
- 備付資料- 10 自己点検・評価個人シート

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果の行動計画

本学の建学の精神や教育活動は、平成25年度の校名変更と現学長就任を機に広く地域に周知されるようになった。

「神を敬し、人を愛する」について、本学は「神を敬すとは、人間を超えた力が与えた境遇を自分の人生だと思い、その中で自分らしい努力をしたり、その状況を楽しんだりすることである。人を愛するとは、そこで得たものを人と分かち合うことである。初代理事長の趣意である”実学をもって地域に貢献せん”と通じている」と解釈している。三つの方針にもこの精神は謳われており、平成25年度以来、本学は重点目標に「地域貢献の推進」を掲げている。この目標は平成28年度をもって一区切りとし、29年度は新たな目標を掲げる予定である。学科長会議、教授会での審議を経て、本学の独自性を高める方策を定める。

教育の効果については、3学科それぞれに量的・質的データを整備して実績と到達度を明らかにしている。各年度のデータを蓄積して、PDCAサイクルで教育の効果を検証していく。

◇基準Ⅰについての特記事項

(1) 以上の基準以外に建学の精神と教育の効果について努力している事項。

①「建学の精神」の特記事項として、本学の音楽活動を付記する。本学では、式典や音楽会で式歌として幼児保育学科の学生がヘンデルの宗教曲「ハレルヤ」を合唱している。看護学科の学生は宣誓式で賛美歌を歌っている。学生が一堂に会して神を称える喜びを表現することにより、建学の精神である「神を敬し、人を愛する」心を広く内外に周知させている。

②「教育の効果」について、地域貢献を特記する。本学では例年80%以上の学生が地域から通学し、地域に就職している。在学中も実習を通じて地域と密接な関係を保っている。このことから、重点目標に「地域貢献」を掲げ、地域貢献を通じて学生の自主性と本学の独自性の涵養を図っている。教職員や学生の参加・貢献度は年々拡充されている。平成27年度は活動件数が3学科で178件を数え、分析の結果「地域活力の創出」「まちの魅力創出」「地域の安心確立」に貢献していることが明らかになった。(詳細は選択的評価基準「地域貢献の取り組みについて」に記述)

③「教育の効果」について、学生会活動を特記する。学生会の活動は学生の手によって活発に行われている。新入生宿泊研修、スポーツ祭、学生祭、卒業生送別会などの行事は学生会執行部のリードのもとに自主的に展開されている。リーダー学生の活動は後輩から熱い支持を得ている。重点目標の「自主性の涵養」の一例として付記する。

④平成22年度より八戸学院大学と八戸学院短期大学が自己点検・評価について書面と協議で相互検証を行っている。同一法人内の施設ではあるが、次年度に評価の結果が活かされる実効ある相互評価として特記する。

⑤平成27年度、幼児保育学科の学科棟(新1号館：管理棟・講義棟)が建設され、学習環境が整備された。平成28年度から大学とのキャンパス共用(特に八戸学院大学会館と八戸学院大学・八戸学院短期大学図書館の共用、食堂の共用)が行われ、大学2学部3学科、短期大学3学科の交流が進んでいる。(基礎資料「光星学院美保野キャンパス配置図」参照)

(2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現(達成)できない事項。

特に無し。